

「若武者」に農林水産大臣賞！

JF大分

水産おおいた

2025年
04月
176号

発行元
大分県漁協

<http://www.if-oita.or.jp/>

2 面
担い手特集

3 面
育てる漁業

4 面
理事会等
調整委員会

5 面
県議会・広調委

6 面
海興水産参入



7 面
JF共助会

8 面
人事異動

9 面
関の幸、堪能



県産魚の日

第30回全国青年・女性漁業者交流大会が4日・5日の両日、東京都中央区のAP日本橋で開催された。本県からは県大会で選ばれた浪井丸天水産の浪井大喜さんが第2分科会の漁業経営改善部門で発表し、最高賞である農林水産大臣賞を受賞した。▽6面に関連記事

浪井さんは「ブランドをつくる！〜若武者の挑戦〜」と題し、価格決定権がない、後継者不足、人出不足、アナログ業務と言った養殖業の課題をDXを活用して解決し、ロードマップに沿って大分から海外へと挑戦した成果を発表した。情報の活用と労働条件の改善により、若手の従業員が活躍できる小規模経営体のモデルとして高く評価された。



詳細はJF全漁連のHP参照

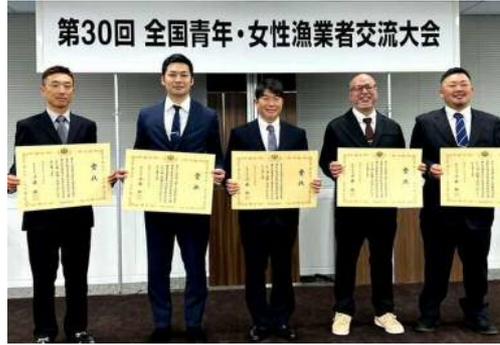
<https://www.zengyoren.or.jp/>

農林水産省は、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、輸出取組の二本となる産地として、大分県漁協を「フラッグシップ輸出産地（対象品目「ぶり」）」に認定した。6日、県水産会館において九州農政局の陶山善広地方参事官から県漁協の高橋正興経済事業部長に大臣の認定証が授与された。

詳細は農林水産省のHP参照 https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/gfp/flags_hip_yusutsu.html

県漁協(ブリ) フラッグシップ輸出産地に認定

このほか、「資源管理・資源増殖部門」ではイセエビの資源管理に取り組んだ千葉県の鴨川市漁協大海エビ網組合、「流通・消費拡大部門」では漁師による6次産業化に取り組む山口県の合同会社大兵食品、「地域活性化部門」ではシロエビ資源の持続的利用に努める富山県の新湊漁協青年部、「多面的機能・環境保全部門」では奥尻島の漁業活性化を進める北海道のひやま漁協青年部奥尻支部が農林水産大臣賞に輝いた。



第30回 全国青年・女性漁業者交流大会

このほか、「資源管理・資源増殖部門」ではイセエビの資源管理に取り組んだ千葉県の鴨川市漁協大海エビ網組合、「流通・消費拡大部門」では漁師による6次産業化に取り組む山口県の合同会社大兵食品、「地域活性化部門」ではシロエビ資源の持続的利用に努める富山県の新湊漁協青年部、「多面的機能・環境保全部門」では奥尻島の漁業活性化を進める北海道のひやま漁協青年部奥尻支部が農林水産大臣賞に輝いた。



(左から)九州農政局村中課長、梅木部会長、高橋部長、大分県拠点陶山参事官



当日は「牛肉」の産地として「ブランドおおいた輸出促進協議会畜産部会」も認定された。

詳細は農林水産省のHP参照

大分県異動内示

農林水産部審議監に大塚氏、水産振興課長に高田氏
水産研究部長に倉橋氏、北部水産グループ長に宮村氏

県は19日、4月1日付け人事異動を内示した。

農林水産部審議監(水産担当)兼漁業管理課長に大塚猛水産振興課長が昇任したほか、水産振興課長に高田淳史全国豊かな海づくり大会推進室長、漁港漁村整備課長に平川尚人国東土木事務所長が就いた。

次長級

農林水産部審議監(水産担当) 兼漁業管理課長 大塚 猛

課長級

水産振興課長 高田 淳史

漁港漁村整備課長 平川 尚人

漁業管理課参事 平川 千修

水産研究部長 倉橋賢二郎

北部水産グループ長 宮村 和良

南部振興局農山漁村 大石 隆史

振興部長



(左から)高瀬さん、大海さん、中根組合長、松原さん

本年度の大分県漁業学校は全てのカリキュラムを修了した19日、県水産会館で中根組合長の講話に続き修了式を行った。香々地支店の松原大海さん(刺網、カゴ)、姫島支店の大海陽さん(たこつぼ、刺網、カゴ、釣り)及び下入津支店の高瀬温大さん(陸上養殖(フグ)、定置網)に中根組合長から修了証書を授与した。

漁業学校は、県漁協と大分県が連携して、本県漁業の就業を希望する者に対し、漁業に

関する知識や技術の習得等に関する研修を実施するもの。1年間のカリキュラムは漁業基礎知識研修(漁業座学・陸上実習)140時間、漁労実習1060時間間に及ぶ。

式中中根組合長は、先輩漁業者としてアドバイスし、漁業士会に入り多くの仲間と交流し資源管理などに取り組んでもらいたい、漁協事業にも協力してほしいと声をかけた。

3人には浜の新戦力として頑張つて欲しい。

親睦を深める！青年部

2月8日の第2土曜日、大分市内で県漁協青年部のボウリング大会を開催した。各支部の青年部員に県と漁協の職員も合わせて52人が参加した。1人2ゲームの合計点で競い、上位3名と飛び賞に景品が贈られた。

1位は芦刈貫太さん(鶴見支部)、2位は吉田和隼さん(佐賀関支部)、3位は栄木進二さん(杵築支部)となった。

大会終了後は市内の居酒屋で親睦を深めた。



3名に修了証授与

大分県漁業学校

青年漁業士3名を認定

大分県

県は21日付けで、本年度の漁業士を認定した。県漁協組合員である中津支店の増田朋宏さん(小型底びき網漁業、ノリ養殖業)、上入津支店の小野涼介さん(真珠養殖業)及び蒲江支店の後藤拓也さん(ヒオウギガイ養殖業)の3名が青年漁業士に認定された。

漁業士の認定は、後継者の資質向上と自立意欲向上を目的に、国の事業として昭和61年度から実施されている。県はこれまで地域漁業の核となる青年漁業士132名、青年漁業士等に指導助言できる指導漁業士128名を認定している。本年度は指導漁業士の認定はなかった。

新たに青年漁業士に認定された皆さんには、後継者の指導や漁村活性化に活躍されるとともに、中核的漁業者として施策の提言や県・県漁協等と連携して施策の推進に取り組んでいただきたい。



県漁協ブース



県の田西主幹が漁業を紹介

2月15日、大分市のコンパルホールで「おんせん県おおいた就農・就業応援フェアIn大分」が開催された。県漁協も県水産振興課とともに出展した。

全体で82組、114名が来場したが、その大半は就農を目指す方々であった。県漁協ブースでは、漁協職員に関心を持たれた方や広く職業を探している方に説明することができた。

大分で漁師になろう！



県漁協本店



中津支店



佐賀関支店

2月22日、東京都の大田区産業プラザPIOで「漁業就業支援フェア2025」が開催された。全国から50団体、県漁協からは本店、佐賀関支店及び中津支店(株)ブルが出展した。

全体の来場者数172名、県漁協には7名の来場があったが、すぐに就業または長期研修事業を開始できそうな方はいなかった。

漁業就業支援フェア2025

タチウオ漁業者検討会を開催

8日、県水産会館において令和6年度大分県タチウオ漁業者検討会を開催した。

議題(1)「大分県タチウオ資源管理について」では、水産研究部の真田主任研究員が資源解析の結果を、水産振興課の堤課長補佐が資源管理措置について説明した。

議題(2)「その他」では、17日に水産庁瀬戸内海漁業調整事務所が主催し関係県が出席する協議の場で、大分県が①愛媛県の大中まき網の操業回数や②広島・山口の遊漁者マナー等について問題提起することとした。一方、大分愛媛両県の釣り漁業者、遊漁者と愛媛県の大中まき網漁業者の意見交換会については、実効性を疑問視する声も上がった。

令和7年度の本県のタチウオ資源管理措置については、下記のとおり本年度と同等とすることで合意した。



- 1 対象海域:大分県海域
- 2 対象漁業:釣り、小型機船底びき網、はえなわ
- 3 令和7年度の漁獲努力量削減措置

(1) 禁漁区の設定

○区域

北緯 33°17' 00" の緯線と北緯 33°19' 00" の緯線との間の海で東経131°56' 00" の経線以東の大分県海域(緯度経度は世界測地系)

○期間 4月21日から6月30日までの間

○内容 タチウオを漁獲目的とした操業をしない

(2) 休漁日の設定

1) 令和6年5月から6月

①タチウオを漁獲目的とする全ての漁業について、下記を休漁とする。

- ・関崎と佐多岬を結んだ線より北側では毎週土曜日を休漁とする。
- ・関崎と佐多岬を結んだ線より南側では毎週土曜日と5月1日(木)、5月2日(金)を休漁とする。

②タチウオを漁獲目的とする小型機船底びき網及びはえなわについては、5月11日(日)から5月16日(金)を休漁とする。

2) 上記1)以外の期間(令和7年4月、令和7年7月から令和8年3月)

①タチウオを漁獲目的とする釣りについては、7月から8月の毎週土曜日、それ以外の期間は毎月第2土曜日を休漁とする。

②タチウオを漁獲目的とする小型機船底びき網及びはえなわについては、毎週土曜日を休漁とする。



マアジ・マサバ

資源管理協定を締結へ

佐賀関一本釣り

5月 2日(金)

5月30日(金)

6月26日(木)

休漁日

臼津まき網

5月11日(日)

5月15日(木)

6月13日(金)

県漁協佐賀関支店と臼津まき網連絡会は25日、臼杵市で調整会議を行った。マアジ・マサバの資源を保護するため、本年も双方が3日以上以上の休漁日を設けることで合意した。



県漁業管理課の大石隆史参事の挨拶に続き、県水産研究部の和田宗一郎研究員が「豊予海峡におけるマアジ・マサバの資源生態調査」について報告した。マサバの漁獲量は全国では減少、大分県は増加。令和6年は佐賀関一本釣り、臼津まき網ともに漁獲量は増加した。マアジの漁獲量は全国、大分県ともに横ばい。6年は佐賀関一本釣りと臼津まき網ともに漁獲量は減少した。今後の調査では、臼津でのサンプリングを追加し環境条件の解析を進めていくとした。須川運営委員長からは、佐賀関一本釣りでも0~1歳魚のサイズはあがるが、値段がつかないので逃がしているため調査結果に反映されていない等の指摘があった。

次いで、県漁協漁政課から「マアジ・マサバ資源管理協定書」の案は昨年同様の内容であることを説明。第5条に定める3日間以上の休漁日については3月末日までに報告することで合意した。



第5回入津地区養殖振興検討委員会を開催

26日、本年度最後の検討委員会を開催した。

浮沈式生簀の導入は個人経営体の生き残りに必要、真剣な検討を・県

入津地区養殖振興各事業の取組等として、県南部振興局の竹尻浩平主任が「カキ養殖試験」及び「陸上養殖施設の排水ヤシマット実証試験」の結果を、佐伯市水産課の染矢友和総括主幹が「作れい事業」の経過を、県水産研究部の宮村和良上席主幹研究員(養殖環境チームリーダー)が「水中カメラによる赤潮発生時の養殖ブリ遊泳行動モニタリング」結果を報告した。振興局は、取組を通して漁業者の環境への配慮が進んでいると指摘。作れいは7年度で終了しモニタリングが始まるが、既に藻場の拡大がみられる等の意見も出された。遊泳行動では、赤潮発生とブリの異常行動の関連が示され、今後は画像解析で異常行動を判定し対応に繋げたいとの説明があった。

次いで養殖業の現状などとして、「蒲江加工センターの稼働

状況等」について県漁協の高橋正興経済事業部長が、「各地区の在池量、価格、餌単価、生産原価の現状と見込み」について上入津支店の小野崇樹支店長と下入津支店の海面養殖業者代表浪井大喜氏が報告した。いずれも在池量は少なく、3月に入り価格は上昇、餌は低価格の魚粉が出たが高止まり、販売単価がやっと生産原価を上回る状況となっている。

最後に浮沈式イケスの導入については、県水産振興課の大塚猛課長から「個人経営体が生き残るために必要。苦しい時期には取り組めないで、利益が出ている今こそ真剣に検討してほしい」と発言があった。

次年度予算要求時期を踏まえ、次回は6月末までに開催し、生産者の意向を聞くことを約して閉会した。

全会一致で新川参事の任期延長を承認

第11回理事会・不良債権処理の方針を確認

3日、第11回理事会を開催。第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への新規加入2人及び准組合員から正組合員への資格変更1人について承認した。

第2号議案「管理職定年制度及び一般職員の給与等に関する内規の変更について」は、内規に定める参事職の管理職定年を「理事会にて判断した場合」と明確にする等について承認した。また、この変更を踏まえ、新川参事の任期を本年9月末

まで延長することについて、全会一致で決定した。

協議・報告事項では、①米水津はまち養殖漁業生産組合の収支状況について、購買未収が販売未払を上回っているものの、内部留保があり回収可能との報告があった。

この他、ライフジャケットの着用、不良債権処理、上入津地区浜ブラの全漁連会長賞受賞、リース漁船の承継者決定、今後のスケジュール等について情報を共有した。

第12回理事会

26日、第12回理事会を開催。

第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への新規加入8人及び譲渡加入5人並びに正組合員への資格変更1人及び譲渡加入1人について承認した。

第2号議案「組合員資格審査委員会の結果報告について」では、18日開催の資格審査協議結果が千野委員長名で示され承認した。

第3号議案「理事との融資契約について」は、大分県漁船リース協会への漁業近代化資金の証書貸付について承認した。

第4号議案「バーゼルⅢ最終化に伴う「自己資本比率算出要領」等の全部改正について」及び第5号議案

燃油取扱金額ゼロはいかがなものか？

令和6年度 第1回 組合員資格審査委員会

18日、本年度の資格審査を行った。委員改選後の初会合であり、委員長に学識兼公益代表の千野博之弁護士を、副委員長に杵築地区の阿部義広委員を重任し、地区漁業運営委員等について審査した。この結果、審査した全員に資格がある旨理事会に対し意見を述べることとなった。

ただし、購買事業がない、あるいは購買品にない油種を使っているから燃油取扱金額ゼロはおかしい。操業していれば燃油は必要で、スタンド等からも領収を求めべき。系統外の利用でも漁協を通じた扱いは可能等の意見が出され、今後の対応が求められる。

区画漁業権の条件変更を承認

第29回大分海区漁業調整委員会

2月21日、県水産会館において第29回委員会があった。

第1号議案「区画漁業権の条件変更について」は、区第3238号（佐伯市上浦・くろまぐろ小割式養殖業）において、養殖用種苗の種類の制限を現行の「人工種苗のみ」から変更後は「人工種苗＋天然種苗（移送）」とするもの。新たな行使者となる海興水産（株）の要望を受け、漁業権者である県漁協が知事に要望したもので、知事からの諮問に対し

て異議ない旨答申することに決定した。

第2号議案「豊後水道におけるたる流し漁業（立縄釣漁業）の禁止について」、第3号議案「伊予灘及び豊後水道におけるくろまぐろの採捕の禁止について」及び第4号議案「あわび類、うに類の採捕の禁止について」は、現行と同内容の委員会指示を発出することに決した。

まごえ釣り等漁法の制限を継続

第30回大分海区漁業調整委員会

12日、県水産会館において第22期の最後となる第30回委員会があった。

第1号議案「別府湾南部海域における漁法の制限について」、第2号議案「別府湾南部海域におけるあみ等のまきえを使用して行う船釣り等の禁止について」、第3号議案「大分県海域におけるあみ等のまきえの使用禁止について」、第4号議案「津久見市無垢島周辺における漁

「役員賠償責任保険の加入について」も承認した。

この他、「令和6年度・決算見込み」等を報告した。

効期間については、宇佐地区の漁業者から要望のあった「かご漁業いかたま漁業」について公示することについて、異議ない旨回答することと決定した。許可の有効期間は既存の許可と合わせて短縮する。

第6号議案「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」の策定については、国の基本方針と県の長期計画に基づく改正案について詳細な説明があり、次回に採決することとした。

答することに決定した。

第8号議案「知事許可漁業の制限措置及び申請期間並びに許可の有効期間について」では、宇佐地区の漁業者から要望のあった「小型機船船びき網漁業手繰り第2種」及び「網漁業」について公示することについて、異議ない旨回答することに決定した。許可の有効期間は既存の許可と合わせて短縮する。

第9号議案「大分県資源管理方針の一部改正について」は、漁業法の規定に基づき資源管理基本方針に追加された特定水産資源「ぶり」を県の方針に加えるもの、第10号議案「知事許可漁獲可能量の設定について」は、「ぶり」も含めて国から当初配分通知があった「くろまぐろ」、「するめいか」を知事管理区分に設定するもので、異議ない旨回答することに決定した。

第7号議案「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」の策定については、第29回委員会で説明があったもので、質疑を経て異議ない旨回答

県議会第1回定例会 水産関係質疑応答

県議会は2月25日に令和7年第1回定例会を開会、3月5日・6日に代表質問、7日から11日の間に一般質問を行った。公明党を代表して澤田友広氏は「農林水産業における気候変動対策」について知事の考えを質した。また、一般質問で福崎智幸氏（県民）は「海洋科学高の教育内容充実等」について聞いた。



澤田友広議員

農林水産業における気候変動対策について

【質問】澤田議員

異常気象は農林水産業に様々な面で影響を及ぼす。水産業では、海水温の上昇は魚類の分布や回遊パターンを変化させ、特定魚種の漁獲量が減少する可能性がある。

知事は農林水産業における気候変動対策にどのように取り組んでいくのか。

【答弁】佐藤知事

農林水産業を持続可能な産業として次世代に繋いでいくためには、近年の激しい気候変動の影響を抑制する取組が重要。海水温上昇への対応として高水温の影響を受けにくい沈下式生

け簀を活用した新たな養殖方法の実証や、高温耐性種苗の導入によるカキ養殖等の拡大に取り組む。水産研究部は水温変化に対応した魚病対策に取り組む。研究成果を生産現場に繋げる。流通面では鮮度や衛生管理に配慮した流通経路を確保するため、衛生管理型魚市場を整備する佐伯市に支援する。



福崎智幸議員

海洋科学高校について

【質問】福崎議員

県立海洋科学高校の教育環境を一層充実させ、就学者を確保し、若手就業者の確保が難しい。海事関連産業の人材育成拠点として機能させることは喫緊の



翔洋丸における遠洋航海実習
(許可を得て海洋科学高のHPから転載しました)

課題。

教育長は海洋科学高の教育内容の充実や定員確保にどのように取り組むのか。

【答弁】山田教育長

海事関連産業の即戦力となる海技士等の育成に向け、遠洋航海実習を通して免許取得に直結する実践的教育を実施するとともに、新たに小型実習船を建造し学習環境を充実させる。漁業現場でのインターンシップや漁協等と連携した資源保護活動等の体験学習により学びを深める。知識や技術の習得により船員としての就職率は九州で2位となった。
小中学生への出前授業、学校見学、実習船乗船等により高校や産業への理解を深め、定員確保に繋げる。

広域漁業調整委員会指示を見直し遊漁への規制と抑止力を強化

	令和6年度(現行)	令和7年度(見直し)
採捕上限の設定	複数月での設定が存在	毎月均等に設定 60t/12月
大型魚のバググリミット(保有制限)	1人1日1尾	1人毎月1尾
採捕報告の期限	陸揚げ後から3日以内	陸揚げ後から1日(翌日)以内
採捕報告の内容	採捕者情報	氏名、住所、電話番号、メールアドレス
	採捕したくろまぐろ(大型魚)の情報	・重量、尾数 ・尾さ長が確認できる写真 ・計量方法(はかり、目測など) ・尾さ長 ・陸揚げ日・採捕した海域
	船舶情報	(遊漁船を利用した場合) 遊漁船名、登録都道府県 (遊漁船以外を利用した場合) (遊漁船以外を利用した場合) 船舶番号又は船舶検査済票の番号
虚偽報告抑止策		・二重に認証システム(電話番号認証の導入)・本人確認書類の提出
委員会指示の有効期間	1年間(R6.4.1~R7.3.31)	2年間(R7.4.1~R9.3.31)

クロマグロ遊漁に委員会指示を发出

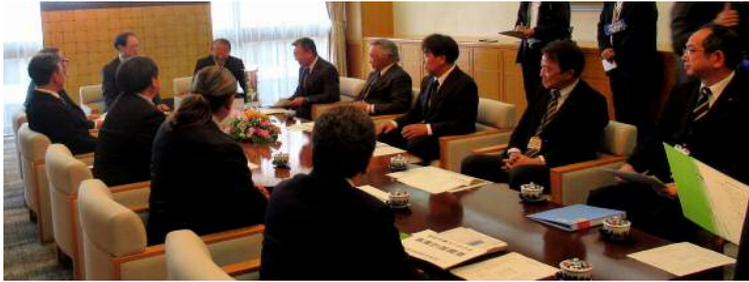
4日、神戸地方合同庁舎で第49回瀬戸内海広域漁業調整委員会が開催された。太平洋クロマグロの遊漁に対し遊漁専門部会の合意を踏まえ、規制と抑止力の強化を内容とする委員会指示を发出すること

とが決まった。小型魚(30キロ未満)の採捕を禁止し、大型魚(30キロ以上)については表の内容に強化された。サワラについても、現行どおりの委員会指示を发出することが決まった。

瀬戸内 広瀬調戸委

佐伯湾でクロマグロを養殖

三陽グループ「海興水産」が表明



水産物の卸売業や加工業を営む株式会社三陽の関係会社、海興水産（長崎県五島市、長谷幸一郎社長）は4月から佐伯湾でクロマグロ養殖を始める。海興水産は巻網漁業や養殖業を営んでおり種苗の採捕や餌料の製造ができ、グループ内で加工・販売まで一貫して行える強みがある。

24日、長谷社長らは県漁協の中根組合長、山道上浦地区漁業運営委員長と県庁を訪問し、佐藤知事と田中佐伯市長に参入表明書を手渡し、事業計画を説明した。毎年6000尾の種苗を導入し、3～4年で50キ以上で育て、年間300～350トを生産するとしている。

ただし、今回使用する区画の種苗は「人工種苗のみ」の条件であった



(左から) 中根組合長、尾野副知事、浪井代表

第30回全国青年・女性漁業者交流大会で農林水産大臣賞を受賞した浪井丸天水産の浪井大喜さんは、28日に県庁を訪れ尾野賢治副知事に受賞を報告した。

銘柄化で取引先も生産尾数も増やし、IT活用で時短を推進、若手従業員が就業できる環境を実現した。

尾野副知事は「差別化で競争力がつき、効率化で生産性が高まり、担い手対策につながった。厳しい環境にある養殖業に一筋の光明が見えた」とたたえた。浪井代表は、今後のさらなる生産拡大に意欲を示した。

「若武者」副知事に受賞を報告



め、知事は海区漁業調整委員会の意見を聴き（4頁参照）、天然種苗（移送）の使用を可能としている。



水産研究タイムリー情報

ヒラメの採卵を実施しました！

3月24日 水産研究部 企画指導担当

当研究部では、病気に強く成長が早いヒラメの育種を進めています。3月12日にヒラメの採卵を開始し、親の組合せを変えた4パターンの種苗生産を実施しました。3月下旬にも、別の親の組合せで種苗生産を行い、前述の種苗とともに、成長・耐病性を確認し、優良な親の組合せを調査する予定です。



ヒラメの採卵の様子

クロメの繁る海を目指して

3月6日 北部水産グループ 養殖環境チーム

海洋環境の変化に伴い、各地で「磯焼け」と呼ばれる海藻群落の消失・減少が聞かれます。姫島周辺でもクロメの減少が確認されており、漁業者が海藻を保全する取組を行っています。

当グループでは構造物に取り付けやすくするために木片に付着させた人工種苗を試験的に作成し、提供しました。これらの種苗が育ち、海藻が増えるよう漁業者とともに経過を観察します。



JF共助会の退職福祉事業に参加しませんか？

「退職福祉事業」って何？

水産団体の退職金支給原資の確保や水産団体役職員個人の退職後の資金造成を図るため、JF共助会が実施する事業です。

大分県漁協は団体としては加入していませんが、大分県の水産団体から個人で36名が加入しています。ここでは、個人加入についてご説明します。

事業の目的と仕組は？

目的は、役職員の退職後の資金造成です。



・大分県漁協から支給される退職金以外の資金を造成できます。

仕組は、原則として給与天引きにより毎月積立会費(1口150円)を払い込みます。

払い込む積立会費は、将来に向かって増やしたり減らしたり、また休業中等には払い込みを一時休止することが可能です。



- ・大分県漁協の役職員であれば、お一人から加入できます。
- ・加入口数は、1口以上3,000口以内で自由に決められます。
給料が少ない若い時は少額で、年齢とともに余裕ができたなら増額できます。
- ・給付金は、退職給付金、死亡給付金、そしていつでも中途解約ができ、この場合は中止給付金が支払われます。
- ・貸付制度を利用することができます。退職給付金の70%が上限です。
- ・天引きですから、無理なく貯まります。

いくらもらえるの？

退職給付金は、次の「計算利率」にもとづいて計算します。加入から退職給付時までの期間について、「計算利率」で決められた加入期間ごとに計算した金額を合計して支給します。

(※ただし、積立会費の払い込みを休止している期間は、加入期間に算入しません。)

計算利率

1. 加入期間2年未満のもの	払込積立会費総額
2. 加入期間2年以上5年未満のもの	0.50%
3. 加入期間5年以上10年未満のもの	0.75%
4. 加入期間10年以上15年未満のもの	1.00%
5. 加入期間15年以上のもの	1.25%

具体的に教えて？



100口(月15,000円)加入の場合、25年間加入すると、**450万円**払い込んで、退職給付金は**517万8100円**となります。(右表参考)

退職後の豊かな生活に向け、皆様のご参加をお待ちしています！

100口(月15,000円)加入の場合 (単位:円)

経過期間	項目	払込会費	退職給付金
1年		180,000	180,000
5年		900,000	909,600
10年		1,800,000	1,861,600
15年		2,700,000	2,879,700
20年		3,600,000	3,993,300
25年		4,500,000	5,178,100
30年		5,400,000	6,438,900
35年		6,300,000	7,780,500
40年		7,200,000	9,208,300

詳しくはJF共助会のHP
<http://www.kvoioikai.or.jp/index.html>
 もしくはJF共助会専門委員の本庄まで。

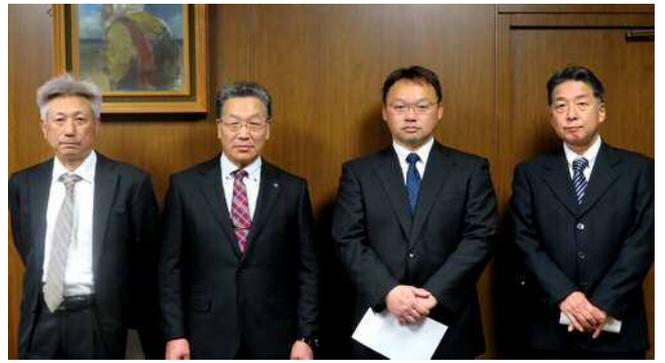
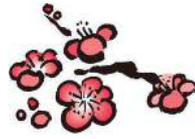
3月1日付け 辞令交付

【本店】

- ▽信用事業部 部長(部長兼米水津支店長)佐藤伸弘
- ▽内部検査室 検査員専門員(総務部付杵築日出統合支店総務担当専門員)奥井豊広

【米水津支店】

- 支店長(支店長代理)塩月一信



(左から) 佐藤部長、中根組合長、塩月支店長、奥井専門員

4月1日付け 人事異動

4月1日付けの人事異動を19日に内示した。

【本店】

- ▽総務部 部長兼総務課長(漁政課長)永井真二郎、総務課(正職員登用)大野麻衣子、漁政課長(信用事業部審査課長)長野定勝、経営管理課主任(復職)植木千絵
- ▽経済事業部 部長(信用事業部長)佐藤伸弘、専門幹(部長兼加工センター本部長兼蒲江加工センター長)高橋正興、購買課長兼別府支店長代理(購買課長)染矢拓宏
- ▽信用事業部 部長兼大分支店長(総務部総務課長兼大分支店長)西田淳一、審査課長(同課長補佐)橋本圭輔、資金課臨時(総務部経営管理課臨時)中内望

【中津支店】

- 購買担当臨時(今津営業店担当パート)出口里美

【宇佐支店】

- 総務課嘱託(同専門員)鳴海福寿

【姫島支店】

- 販売担当(正職員登用)大海昌和、購買担当(正職員登用)伊東傑史

【鶴見支店】

- 購買課嘱託(同相談員)早瀬一泰、信用課相談員(同課長)野村陽子、信用課(新規採用)脇田涼花、販売課主任(米水津加工センター業務課)竹田拓矢、販売課臨時(同パート)廣津留理沙、東営業店兼大島営業店相談員(同店長)澤田勝則

【米水津支店】

- 色宮営業店主任(米水津加工センター業務課)佐藤新之介、指導課(正職員登用)山田由斗

【蒲江地区統合支店】

- 統合支店長兼上入津支店長(統合支店長代理兼上入津支店長)小野崇樹、統合支店長代理兼下入津支店長(下入津支店長)高畑秀和

【蒲江支店】

- 総務課長(指導課長)山野清光、販売課長(同課長補佐)後藤浩二、購買製氷課主任(同担当)山路章太

【加工センター本部】

- 本部長兼蒲江加工センター長兼香々地支店長(豊後高田・真玉取次店事務取扱)(総務部長兼香々地支店長(豊後高田・真玉取次店事務取扱))山本幹太、米水津加工センター兼蒲江加工センター業務課(米水津加工センター業務課)蛭子享平

【米水津加工センター】

- 業務課(総務課)吉田未来



皆様のご活躍を
ご祈念します!

県産魚の日 2月は中津フェア



2月の「県産魚の日」は第4金曜日の28日、おさかなランド明野店、わさだ店の2店舗で「中津フェア」を開催した。

中津干潟で育てたシングルシードオイスター「ひがた美人」をはじめ、鱧と舌平目の加工品、海苔を特売した。「ひがた美人」を扱う飲食店を尋ねられるなど、興味を持つお客様が増えたようだ。中津産海産物が当たる抽選会も好評で、多くの来客で賑わった。

関の幸を堪能！ 関あじ 関さば まつり

～駆除したサメの利用も呼びかけ～



関の鯛つり踊り



須川委員長挨拶

8日、県漁協佐賀関支店の荷捌施設周辺で恒例の「関あじ関さばまつり」が開催された。小雨の降る天候だったが、多くの来場者が関の鯛つり踊りを鑑賞し、関ものの刺身定食や握り寿司を味わった。

今回は、新たな試みとしてサメの料理等も紹介された。カマストガリザメと言いつ体長2.5m、100kgを超えることもある大きなサメで、一本釣にかかった関あじや関さばに食い付く漁業の邪魔ものが原料。大分では食習慣がなく未利用だったが、漁獲後速やかに処理すれば臭みもなく、高タンパク、低脂肪の優れた食材になることが分かった。



関もの刺身定食



サメの歯ストラップ



シャークフライ

会場では「サメの消費で漁師を応援しよう」と、佐賀関支店と県中部振興局等が協力して開発したシャークフライやサメの歯ストラップが販売され好評だった。

今月はどうなイベントが開催され会議があるか、毎月編集項目をたてて計画的に紙面を作ろうと思うのだが、これがかなわない。編集後記を書く月末は尻に火が付き、不明を恥じるばかりである。

編集後記

そんな中、今回は共助会の退職福祉事業を紹介できた。実は私も就任後に少額で参加したのだが、気付けば5年。まとまった小遣いが貯まると、たのびの威力である。お給料が上がる皆さん、是非参加をご検討下さい。

今年も別れと出会いの季節がやってきた。4月の異動は大きいものになったが、県漁協の改革に向けた布陣である。

中根組合長の2期目は、これまでの努力を形に示す時となる。組織や業務の統廃合・合理化、経済事業の伸長等に向け、役職員の皆さんの協調と努力をお願いしたい。



サカナをたべれば
幸福が見えてくる

ウオメシ

まぐろステーキ定食

浜茶屋

今回は津久見の人気店「浜茶屋」の登場です。旧道に面していた昔から大好きだった「まぐろステーキ」、久しぶりにいただきました。来客が多く駐車場がいっぱい、なんてことが続き、つい足が遠のいていました。

熱々の鉄板に載せられた分厚いマグロとたっぷりモヤシ。音をたてて焼ける様子が食欲をそそります。定食で2640円と安くはありませんが、満足すること間違えありません。ただ、スーツ、ネクタイの際は油跳ねに要注意！

同店のもう一つの名物「すりみ揚げ」は、近くの「浜市場」で種類も豊富に購入できます。こちらも津久見を通った際の土産の定番です。